

## 特集

# 子どもの貧困は何をもたらすか

8月18日NHK「ニュース7」に、女子高生が実名を出して自分の貧困を訴えた。ところが、放送後、画面に映った女子高生の持ち物やツイッターでつぶやいた千円以上のランチを食べたことなどをあげづらい、「これで貧困といえるのか」と国会議員まで登場し、ネット上でバッシングされた。

今、二つの貧困が進んでいる。一つは、食べ物や着る物がないなど目に見える『絶対的な貧困』である。もう一つは、かわいい服を着たりスマホを持つなど、一見人並みの生活を送っているように見えながら、実は、親の経済的な事情で進学を諦めざるを得ないなど目に見えない『相対的な貧困』である。

子どもの貧困問題は、憲法が保障する「学びの権利」が犯され、就職にも影響し、生まれ育った家庭と同じように経済的に困窮する「貧困の連鎖」が生まれていることを本誌1221号で紹介した。

しかし、貧困問題は教育だけに限らず、子どもたちの健康や生活にも影響を与えていることも報告されている。

厚生労働省の研究会が行った調査では、「休日に

朝食を食べない」または「食べないことがある」という子ども、「インスタントめんを週1回以上食べる」という子どもが、いずれも調査をした子どもの4人に1人にのぼり、貧困世帯以外の子どもよりポイント10ほど多くなっている。この調査では貧困世帯の子どもへの食事は、食生活や栄養に偏りがあることも明らかにした。

また、貧困問題の研究者のグループが小・中学生あわせて6000人あまりに行った調査では、親が子どもを病院に連れて行った方がよいと思いつながら受診させなかったケースが1200人あまりであった。そして、このうちの128人は「医療費の自己負担金を支払えない」という理由で受診を控えていたという。

このように、貧困問題が育ち盛りの時期に必要な栄養を取ることができない。病気になるっても病院に行くことができず子どもが存在している。

今号では、貧困が子どもたちの心身の健康や生活にどのような問題を及ぼしているか、具体的に明らかにしたい。

(編集部)